基本構想

―― 明るい未来に向けて、私たち一人ひとりが主役

菰野町の未来を思い描くには、このまち独自の過去からの積み重ねを大切にすることが必要です。鈴鹿山麓に静かな田園文化を築きながら栄えてきた長い歴史の中で先人たちが培ってきたものであり、まちの特長ともなっているものとして、固有の自然環境や農業、そして、人と人との温かく深いつながりのある風土があります。おいしい空気やおいしい水、都会とは異なる暮らしやすさに起因する「やすらぎ」や「落ち着き」、そして風土が生み出す「支えあい」の心を土台として、それらを発展させながら、未来に向けて取り組んでいくことが大切です。

菰野町は、昭和 32（1957）年に現在の菰野町となって以来、初めてとなる人口減少局面を迎えています。進む少子化、高齢化の中で、誰もが先行きの見えない将来に対する漠然とした不安を持っており、感染症の発生などはこうした不安に拍車をかけています。このような時こそ大切なのは、他人を思いやり、地域を大切にし、私たち一人ひとりがまちづくりに参加していくことなのではないでしょうか。

私たち一人ひとりがまちづくりの主役として、こうした思いを胸に、少しずつ役割を担うことでお互い豊かに、幸せになることを目指しませんか。

明るい未来に向けて、私たち一人ひとりが主役となり、心を一つにこれからの菰野町をつくっていきましょう。

～安心して住み続けられる菰野町であり続けるために～

「まえがき」でも触れた町民アンケートでは、多くの町民が菰野町に住み続けたいという結果が出ています。この状態を続けていくには、町民が高い関心を示す生活の安全安心などとともに、菰野町が財政的にも安心できる状態であり続けることが必要です。また、「安心して住み続けられる菰野町であり続けるために」には、「まえがき」でも触れたＳＤＧｓの理念も込められています。

2　めざす菰野のすがた ～安心して住み続けられる菰野町であり続けるために～

－まちの将来像－

支えあえる、安全で安心なまち
豊かな自然を活かして人びとをひきつけるまち
産業の発展と豊かなくらしが循環するまち
菰野らしい風景の中、子育てしやすいまち
⇒これらのことが、いつまでも、菰野町としてあり続けられること

菰野町の誕生以来、半世紀を超えて築いてきたアイデンティティ（菰野らしさ）は、「安全安心なまち」、「持続可能なまち」、「自然と調和したまち」を基盤とした豊かな田園空間と、その中での落ち着いたくらしであり、これらを大切にして、私たちはまちづくりをしてきました。

しかし、こうした「菰野らしさ」はともすれば当たり前に感じてしまいがちです。長く住んでいる人にとっては当たり前だと思うことも、実はとても貴重なことで、菰野町の「災害に対する安全性」や「静かなくらし」などを求め、「子育てのしやすさ」などに魅力を感じ、町外から移り住む人も少なくありませんし、町民の多くは菰野町に住みやすさを感じており、住み続けたいと思っています。一方で、そのことに自信を持っている人ばかりではありません。

これからは、もっと多くの人が「菰野が好き」と自信を持って言えるよう、共有、共感するための新しいアイデンティティ（菰野らしさ）として、「めざす菰野のすがた」を打ち出していきます。

3　私たちが意識していくこと、私たちの共有目標

～安心して住み続けられる菰野町であり続けるために～　　-基本目標-

基本理念に基づいたまちの将来像の実現に向けて、私たち一人ひとりが主役となり、心を一つにして取り組みを進めるため、すべての分野で意識すべき基本目標を次のとおり掲げます。

（共通）住民自治と将来に引き継げる行財政運営

≫≫財政状況を踏まえた中での課題解決

近年の厳しい経済情勢や社会の変化の中でまちづくりを進めるためには、持続できるしくみを持つことが非常に重要です。人口減少時代を迎え、社会保障費の増加などによる財政の硬直化（自由度低下）が顕著になってきているなど、国、地方自治体は財政的に疲弊してきており、新型コロナウイルス感染症の発生により、更なる財政負担を強いられております。このような中、まちづくりに対する住民ニーズは、複雑化かつ多様化し、まちづくりの様々な課題を行政だけで解決することはますます困難になってきています。

≫≫一人ひとりが支えあう住民自治によるまちづくり

「自治」とは文字通り「地域を自ら治める」という意味ですが、高度成長期以降のわが国では、社会の分業化が進み、菰野町においても少なからず「自治」の意識が薄れてきました。

これから迎える本格的な人口減少の社会においては、地域を支える担い手の数がどんどん減っていきます。そうした中でも地域の活力を失わないためには、「ないものねだり」、つまり今存在しない担い手を求めるのではなく、「あるもの探し」、例えば元気な高齢者の活躍などにより、担い手を見つけていくとともに、私たち一人ひとりができることを担い、支えあうことが大切です。

一方、行政においては、公共施設やインフラの更新など、直面している課題について、住民の理解を得て、人口減少社会の中でも財政面において持続可能なまちづくりをしていく必要があります。私たちが人任せにするのではなく、まちづくりの主体となって住民自治を担い、生活に支障をきたすことのない、持続可能なまちづくりの実現を図っていきましょう。

≫≫技術革新を活用したまちづくり

あわせて、社会は Society5.0 と呼ばれる技術革新の時代を迎えています。そこでは人工知能（ＡＩ）やロボットの技術により、これまではできなかった課題解決ができる可能性が広がります。しかし、こうした技術を使うのは私たち人間です。私たちの主体的な活動が必要であることは変わりません。また、そうした技術革新から取り残される人がいないようにしていくことも大切です。

これらのことを踏まえ、私たちは次のとおり目標を定めます。

人任せではなく、

基本目標-共通　今後も持続可能なまちを　私たち自らが支えよう

≫≫住民のまちづくりへの参加

私たちは、菰野町の強みである地区組織やつながりの風土に根ざした住民主体の活動が継続し、発展するよう、助けあいや支えあいの心を次世代に引き継ぎ、住民同士の情報共有と交流の場などのしくみづくりをし、自助、共助の意識により協力しあえる関係を持った地域社会を形成していきます。老若男女を問わず、多くの住民がまちづくりに参加することを目指します。

≫≫信頼される行政運営

行政は、住民のまちづくりへの参加を支援していきます。Society5.0 を意識し、誰一人取り残されないよう対応しつつ様々な技術革新の活用を常に検討しながら、選択と集中による効率的で責任ある財政運営を行うとともに、災害や感染症発生時など非常事態下のリスク管理を見据えるなどし、住民から信頼される行政運営を進めます。

≫≫地域社会と行政がそれぞれの役割を果たすまちづくり

こうして、地域社会と行政とがそれぞれの役割を担い、補完しあう中で、自助、共助、公助のバランスを保つことで、「安心して住み続けられる菰野町であり続ける」ことを目指します。

この共通基本目標は、次の４つの基本目標に共通する指針となるため、行政はこのことを意識して信頼される適正な行政運営を目指します。私たちは一人ひとりができることを担い、支えあうとともに、自らの役割を果たすことで、これを支えましょう。

私たち一人ひとりがまちづくり、地域づくりの主役です！

（1）いのちとくらしを守る

≫≫危機管理で求められること

全国各地で災害、特に局地的豪雨が頻繁に発生する中、まずは「自分たちで何ができるか」を考え、自分の判断で行動できるようにすることが求められています。特に、令和２（2020）年に感染が拡大した新型コロナウイルス感染症による社会情勢の変化について、危機管理にも新たな視点が必要であることをあらためて認識させられました。

≫≫地域のつながりが安全安心につながる

地域の中には、一人では自分の身を守ることが困難な人がいます。安全で安心できるくらしを守るためには、行政が行う「公助」はもちろんですが、自分の身は自分で守る「自助」、地域や身近な人同士が助けあう「共助」が必要になるため、普段からの声掛けなどで地域のつながりを強くしておくことが大切です。こうした地域のつながりは、防災だけでなく、防犯や交通安全などにもつながるものです。

≫≫一人ひとりが考え、行動し、地域でのつながりを強める

そうすることで私たち自身が主役となって、私たちのくらしを守っていきましょう。

これらのことを踏まえ、私たちは次のとおり目標を定めます。

基本目標１　**みんなで行動し、くらしを守ろう**

≫≫みんなで菰野町を守る

私たちは自助、共助の意識を持つことで災害時に誰一人取り残さない避難などができるよう「みんなで菰野町を守る」という気運を高めていきます。

≫≫菰野町を守るための住民の役割

災害、火災、交通事故や犯罪などに対して、住民一人ひとりがそれらの防止意識を高め、自主防災組織や防犯協会などの地域の組織がより活発に予防活動や初動活動を行うことができるようにすることによって、それらの未然防止と災害発生時の減災につなげます。多様化する消費者トラブルや被害に対しては、地域や身近な人でくらしを守ることに努めます。

≫≫菰野町を守るための行政の役割

行政は災害時における避難のための適時、的確な情報発信など被災者や孤立者を減らすための対策を進めるとともに、消防体制などの充実による専門的で高度な対策を強化します。浸水対策などハード面についても、災害を未然に防ぐための取り組みを関係機関と連携して進めます。消費者トラブルや被害の対応については、関係機関と連携しながら、消費生活に関する窓口機能の充実を図ります。

（２）地域のつながりと支えあい

≫≫誰一人取り残さない地域共生社会の実現

人口減少と高齢化が進む地域社会においては、みんなが近隣に住む人を思いやり、地域とのつながりを意識し、「支える人」「支えられる人」という関係を越えて、一人ひとりが自分のこととしてとらえ、参加してつながる、誰一人取り残さない「地域共生社会」を実現することが必要です。

≫≫地域共生社会を実現するには

今後のまちづくりを担う若者が「地域共生社会」の重要な役割を担っていくようになるため、地域ぐるみで子どもを育て、教育について考えていきましょう。地域には元気な高齢者をはじめ、たくさんの「人財」があります。子ども、若者から働く世代、高齢者まで、誰もが地域でのつながりを意識し、愛着を持ち、さらに当事者意識を持つことが必要であり、その上で、みんなが少しずつ役割を担うことで、持続できる「地域包括ケア」のしくみとなります。そのためにも、生涯学習・生涯スポーツに積極的に参加し、健康管理に努めるとともに地域のつながりをつくっていきましょう。

これらのことを踏まえ、私たちは次のとおり目標を定めます。

基本目標２　**地域でつながり、支えあうしくみをつくろう**

≫≫地域ぐるみで行う切れ目ない子育てと教育

安心して子どもを産み育てられるよう子育て支援対策を推進するとともに、地域ぐるみの子育て環境の醸成を図ります。さらに、核家族、共働き世帯が増え続ける中で家庭の養育力、教育力を支えるため、相談・支援体制の構築を図ります。

元気で心豊かな人が育つまちを目指し、高速大容量のＩＣＴなどを活用した学校教育の充実に努めるとともに、地域とともにある学校づくりを進めながら、家庭、学校、地域社会が連携し、豊かで健全な人間性や社会性を身につけた子どもを育成していくことを目指します。

≫≫様々なアプローチによる地域での支えあい

住民が健康に暮らせるよう、一人ひとりが健康意識を高め、病気や寝たきりなどになりにくい生活を支援するための保健、介護予防対策を進めます。災害時や感染症対策などを見据えた地域医療体制の充実を図り、住み慣れた地域の中で、いつまでも健康で暮らせるよう、互いに助けあい、支えあう地域社会を目指します。

また、生涯学習や生涯スポーツにより、人材の好循環を生み出しながら、プログラム、指導者を強化し、有効活用することで学習やスポーツを積極的に行える環境の充実に努めます。さらに、異世代や様々な人々との交流により地域のつながりを高め、地域での支えあいにつなげます。

≫≫地域福祉の推進

地域包括ケア体制の確立と地域共生社会の実現に向けて、地域福祉を推進し、生活困窮、差別がない社会を目指します。人権尊重は時には命を守ることにもつながるため、社会的支援が必要な方の権利擁護に努めるとともに、性、年齢、国籍、疾病やハンディキャップなどを問わず多様性を認めあい、いつも笑顔で暮らせるよう差別を解消し、人権を尊重する社会づくりを進めます。

（3）将来に引き継げるまちづくり

≫≫なくてはならない菰野町の自然環境

私たちのやすらぎあるくらしを取り巻く環境は、雄大な鈴鹿山脈が与えてくれる清らかな水や空気、そして豊かな恵みをもたらす田園が特徴であり、これらは、なくてはならない貴重なものばかりです。

≫≫自然環境と経済活動が調和した土地利用と都市基盤の整備

平成 31（2019）年に開設した新名神高速道路菰野インターチェンジは、雇用や経済の面で菰野町にとって大きな効果をもたらすものです。私たちのくらしを潤いある豊かなものにしていくためには、自然と共生しつつ、生活や産業活動などに活力を生み出すための調和の取れた土地利用と都市基盤の整備が必要です。

≫≫調和の取れた土地利用と都市基盤の整備をするには

地球温暖化などから自然環境を守っていくには、私たち一人ひとりの意識が大切となり、生活環境におけるまちづくりへの関心を持ち、自分のこととしてとらえることが重要です。その上で公共設備の耐震化や水道施設などの維持管理・設備更新などに対する現状を把握し、行政が適切な時期に行うことにより、私たちの生活に支障をきたすことなく、安心したくらしを送れることとなります。

≫≫魅力あふれる持続可能なまちを目指す

一人ひとりが主役となって菰野町の大切な資産である自然を守り、そこに暮らす人、働く人、訪れる人がいきいきと活動できる、魅力あふれる持続可能なまちをつくっていきましょう。

これらのことを踏まえ、私たちは次のとおり目標を定めます。

基本目標３　**魅力あふれる持続可能なまちをつくろう**

≫≫循環型社会形成とインフラ整備

ごみの減量化、リサイクル、資源の節減などに取り組みます。二酸化炭素排出量の削減など地球規模の観点から環境負荷の低減を図ることはもちろんのこと、森林保全に努め、低炭素、省資源、循環型の社会の形成を進めます。

また、安らぎあるくらしを支えられるよう、里地里山をはじめとする菰野町の豊かな生物多様性や美しい自然・田園環境を守り、水道の水質につながる水源の保全に努めるとともに、耐用年数を迎える施設の更新と、災害に強い水道施設の整備を効率的に行い、安全な水道水の安定供給に努めます。生活排水などについては、公共用水域の水質保全と生活環境の改善の観点から各種汚水処理システムによる適正処理に努めます。

≫≫コンパクト＋ネットワークのまちづくり

人にやさしい、住み続けられるまちであり続けられるよう、自然との調和の中で、都市機能の集約も含めた適切な土地利用を進めることや、菰野インターチェンジ開設を踏まえた体系的な道路ネットワークの構築を推進する一方、公共交通ネットワークの整備を図り、高齢化社会に対応していきます。

（4）こものの魅力創造と発信

≫≫地域資源の活用と発信

菰野町は、開湯 1300 年の歴史を持つ湯の山温泉を代表として、多くの観光資源に恵まれ、長年の歴史の中で育まれた価値ある文化財がたくさんあります。また、高い品質を持つ農産物を生産できる優良農地を有する菰野町にとっては、農業も重要な基幹産業です。森林資源についても木材利用のみならず、観光面などの様々な資源となりえます。

菰野インターチェンジの開設によって、既存の町内産業と合わせた新たな産業活動につながる可能性も広がっています。そうした観光・産業・文化の発展は、観光面だけではなく様々なことへ波及し、プラスの影響を与え、私たちの生活を豊かにする要因となります。このように地域資源の活用は、私たちの生活への影響が大きく、私たちが菰野町の観光や農業を応援し、発信役を担っていくことが大切と言えます。

≫≫保水機能と私たちのくらし

また、田んぼや森林の減少は、保水機能の低下を招き、防災の面においても悪影響を及ぼすなど、私たちのくらしに密接に関連しています。

≫≫私たちの役割

菰野町が持つ観光や産業の資源に磨きをかけるとともに、その素晴らしさを私たち一人ひとりが認識し、一緒になって発信していきましょう。

これらのことを踏まえ、私たちは次のとおり目標を定めます。

基本目標４

資源を磨き、みんなで応援・発信しよう

≫≫地域資源と技術革新の活用

菰野町が持つ美しい自然や文化、歴史遺産を人々がひきつけられる魅力ある地域資源として有効に活用するとともに、菰野町民の財産として、その継承に努めます。

また、観光、産業の活性化を関係人口の増加、まちの活性化につなげるとともに、町内産業の振興に加え、広域的な企業活動、商業活動の活発化を図ることで、生活の利便性向上や、企業・商店・働く人に還元されることを目指します。

そして、地域の農産物を使った食の提供や、森林資源の有効活用など着地型観光を意識した独自のサービスを提供し、人にも地域にも根ざした、観光のまちづくりをします。農業の担い手不足など観光、産業の様々な課題解決について、常に Society5.0 を意識し、技術革新の活用を図ります。

≫≫菰野町の魅力発信などによる活力向上

これらのことを戦略的に進めるため、持続可能な農業生産の基盤づくりや、様々な手法の森林保全により保水機能の維持を図りつつ、特産物の開発や地産地消の推進などによって、農業などの地場産業と商工、観光が連携し、住民も一体となってまちの魅力を発信し、菰野インターチェンジ開設も効果的に活かしながら町の活力を高めていきます。